

GLHSとしての四條畷高校の取組みは、他校とほぼ同じですので、「地元四條畷との絆」を活かした取組みについて、ご説明いたします。

本校は、大阪の東、京都と奈良の県境、北河内と呼ばれる地域 四條畷市にあり、10校の中では正直、一番田舎の学校です。1903年、10番目の府立中学校として創立されました。本来ならば、この地域で一番大きい町は、当時も今も、三十石船で有名な枚方あるいは寝屋川なのですが、なぜ四條畷に作られたのか、少し歴史をお話いたします。

明治政府は、南北朝のうち、南朝を正統とし、南朝側の忠君、楠木正成（まさしげ）を大楠公として神格化しました。その父の遺志を継いで南朝のために戦い、高師直（こうのもろなお）との四條畷の戦いで、命を落とした嫡男の正行（まさつら）も小楠公と呼ばれ、「忠孝両全」の名将と崇められ、1890年、四條畷神社が創建されました。1895年、その四條畷神社に参拝するために、当時の浪速鉄道の終着駅として四條畷駅ができました。そして1903年、小楠公のような若者を育成するために、四條畷の地に「文武両道」「質実剛健」を旨とする、四條畷中学校が創立されました。

このような歴史的経緯のため、学区がなくなった現在も、地元との絆が強く、旧制中学時代を含めると「親子4代畷」という人もいます。「孫が合格した」と、祖父母の皆さんが喜ばれます。現在、四條畷市では、住民の皆さんが、地元を誇りと愛着を持てるようにと「なわて学」講座を年10回開催しており、私も実行委員会のメンバーです。2017年度後期の第4回講座では、生徒が、「四條畷のまちづくり」をテーマに、課題研究の発表を行い、59期生の四條畷市長 東市長がコメントしてくれました。

他にも、近隣の老人介護施設の皆さんのご協力を得て、「高齢者による自動車事故を減らす」をテーマに、課題研究に取り組んでいるグループがいます。このグループは、現在、シンガポールで開催されている高校生の国際発表大会「Global Link Singapore 2019」で発表しているところです。「映画の予告編におけるヒットの法則」の課題研究グループが、49期生の絵本作家 谷口智則さんとともに、四條畷市のPVを製作中です。サッカー部が、「四條畷市マラソン」「フォトロゲイニング in 四條畷」など、四條畷市主催のイベントに、ボランティアとして協力しています。四條畷市の広報チャンネル「なわチャン」にも、畷高生が数多く出演しています。

「地元四條畷との絆」この強みを活かして、「Think Globally Act Locally」を旨として、さらに取組みを進めてまいります。